資料１

令和７年度実績報告

１　実施体制

（１）職員配置

企画・調整（健康推進課）　常勤保健師２人
会計年度任用職員　保健師１人

地域担当（健康課）　常勤保健師１人
会計年度任用職員　保健師又は看護師・管理栄養士
歯科衛生士各１人

（２）企画調整担当と各区の地域担当による担当者会議　４回
地域担当者向け研修会の実施　２回

２　通いの場等への関与の実施状況（令和７年４月～令和８年３月末）

通いの場に参加し、フレイル予防の普及啓発や健康相談（フレイル質問票・体力測定等）を実施。
フレイル質問票の結果から、国の基準に該当するフレイルが疑われる高齢者を把握し、個別的支援へつないでいく。

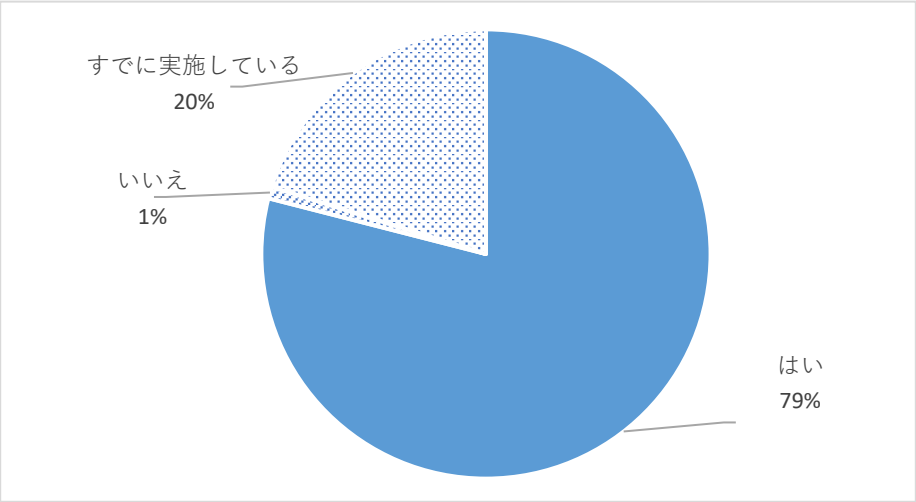
（１）通いの場への関与

関与した通いの場の数			１３１か所
	把握契機	健康課にて以前から把握	６３か所
		関係機関からの紹介	４４か所
		住民からの新規要望	１６か所
		その他	８か所
通いの場の関与回数			１３８回
	実施内容	普及啓発＋健康相談	１１３回
		普及啓発のみ	１８回
		健康相談のみ	７回
参加者数			２，２７４人
	普及啓発＋健康相談実施人数		１，５６１人
	普及啓発のみ実施人数		５７０人
	健康相談のみ実施人数		１４３人
	再掲	質問票実施人数	１，４２７人
		体力測定実施人数	１，１７６人

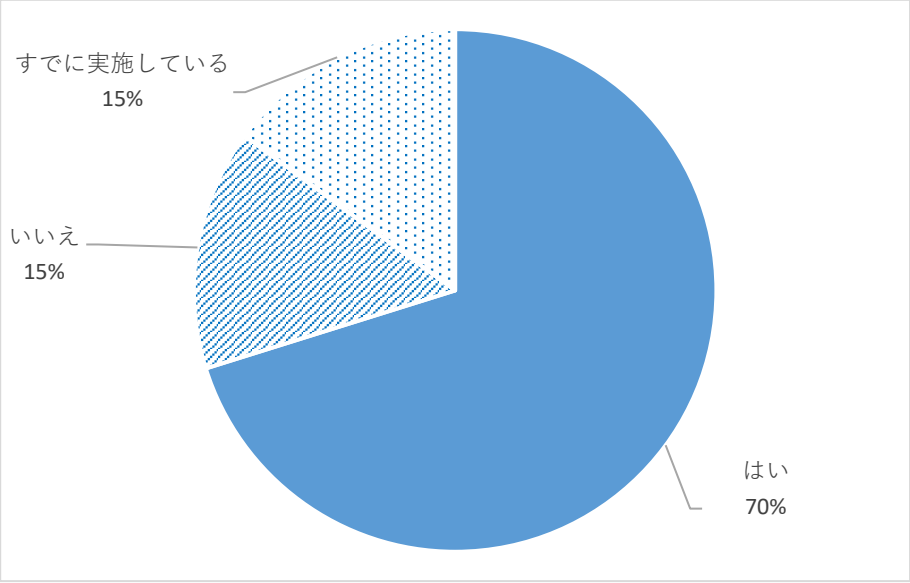
（２）通いの場で実施したアンケート結果

通いの場のグループ代表者１２４名にアンケートを実施した。

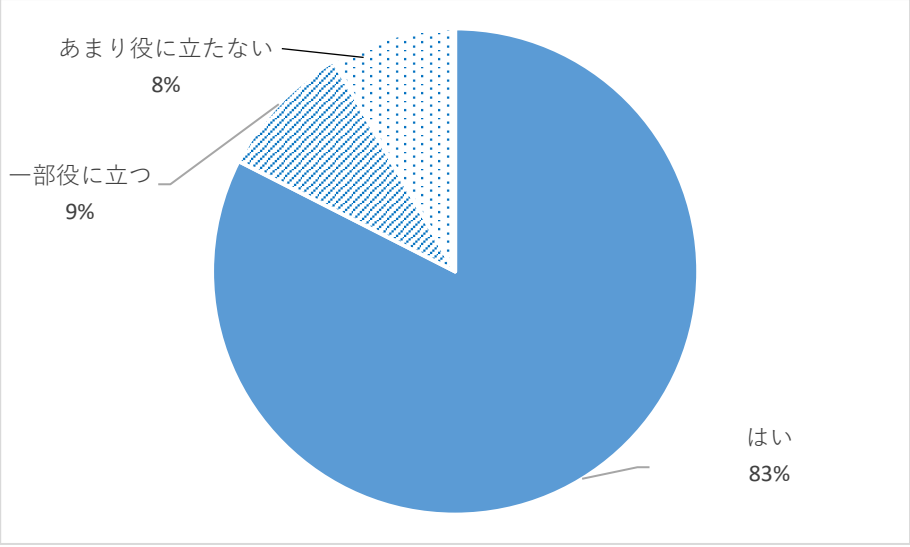
・本日、聞いた内容の中で、自宅で実施しようと思う内容がありましたか



・本日、聞いた内容の中で、グループで実施しようと思う内容がありましたか



・本日の内容は、今後のグループ活動に役立ちますか



3　個別的支援（フレイルリスクの高い方）の実施状況

通いの場での質問票や健診結果から、下記の条件に当てはまる者に健康課の医療専門職が保健指導を実施する。

（1）抽出条件

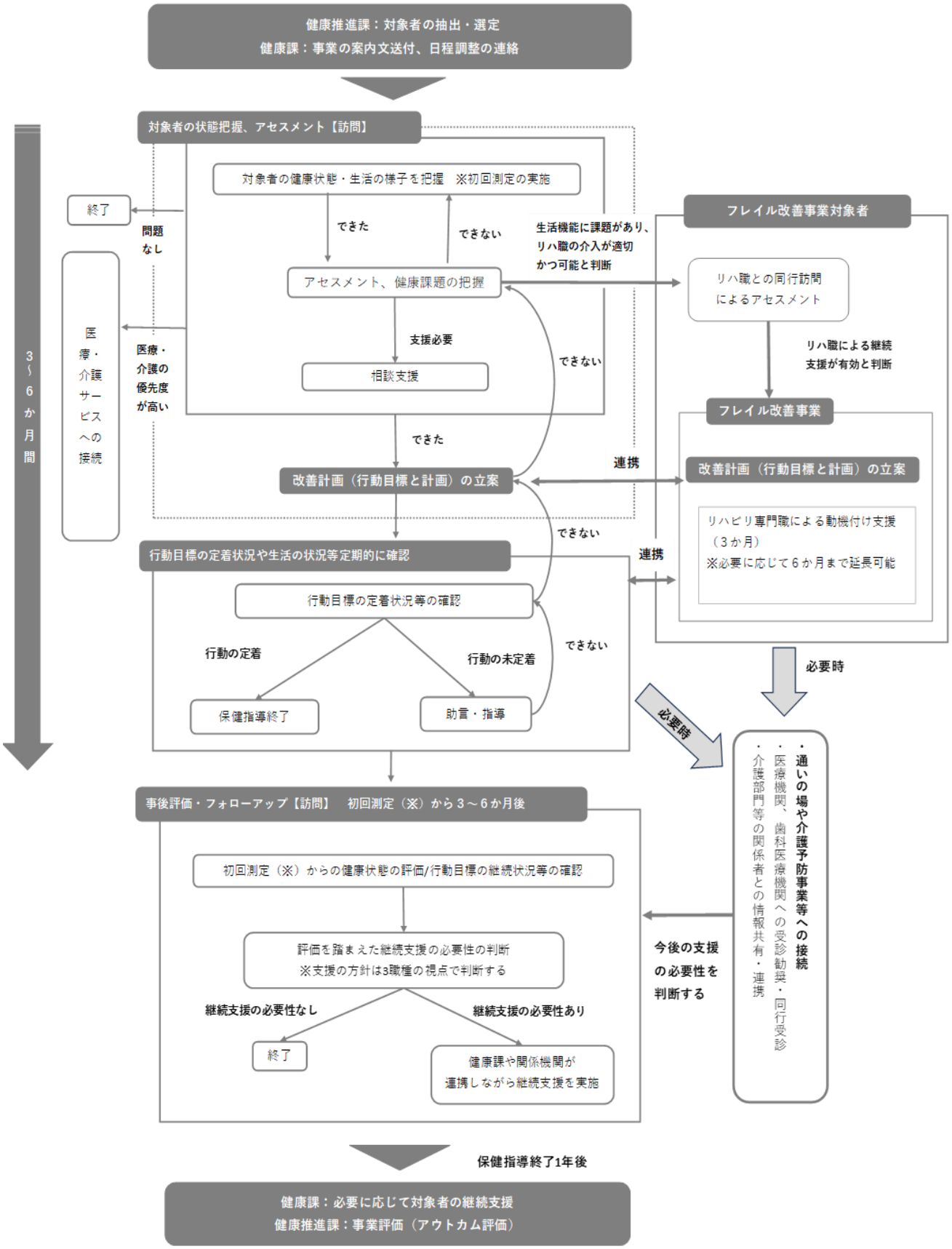
ア　通いの場

栄養	「BMI２０以下」で「半年で２～３kg以上減少」した方
口腔	「固いものが食べにくい」又は「むせる」方のうち、過去１年間歯科受診のない方
運動機能	「歩行速度が遅くなった」かつ「転倒あり」の方、又は 「歩行速度が遅くなった」かつ「健康状態がよくない」方
除外条件	要介護１～５　※支援が必要な方に支援を実施することは差し支えない

イ　健診結果

栄養	「BMI２０以下」で、下記に該当する方 ・７５歳　　…１年で３kg以上減少 ・７６歳以上…「半年で２～３ｋｇ以上減少」または１年で２kg以上の体重減少かつ「外出頻度」「他者との交流」「ソーシャルサポート」のいずれかに障りがある
口腔	「固いものが食べにくい」又は「むせる」方のうち、下記に該当する方 ・過去１年間歯科受診なし ・「BMI２０以下」かつ「半年で２～３ｋｇ以上減少」または１年で２kg以上の体重減少
運動機能	低栄養が疑われる※1方または過体重の方※2のうち、下記に該当する方 ・「歩行速度が遅くなった」かつ「転倒あり」 又は「歩行速度が遅くなった」かつ「健康状態があまりよくない・よくない」 ・「心の健康」「外出頻度」「他者との交流」「ソーシャルサポート」のいずれかに障りがある ※１「BMI２０以下」かつ「半年で２～３ｋｇ以上減少」または１年で２kg以上の体重減少 ※２「BMI３０以上」
除外条件	要介護１～５

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施【個別支援プログラム】



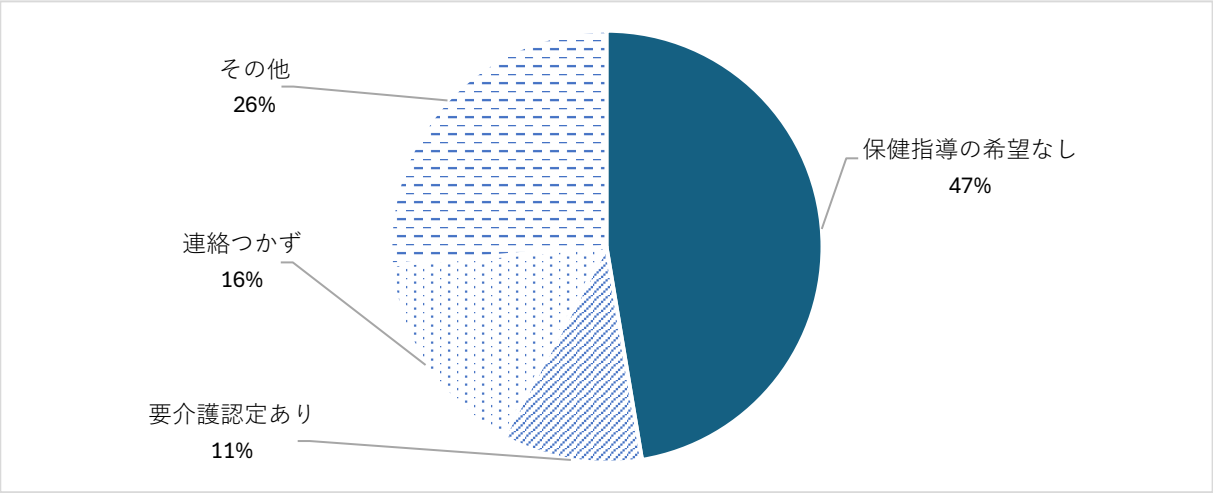
※初回測定
行動目標の立案後の測定も可だが、支援開始後早期に実施することが望ましい。
事後評価は、初回測定と行動目標の策定の早い方から3~6か月後に実施する。

（２）通いの場で把握した対象者の支援状況

ア　対象者について（フレイル質問票を実施した 1,427 人について）　（人）

	人数	内　訳							
		栄養	口腔	運動	栄養 口腔	栄養 運動	口腔 運動	栄養 口腔 運動	その他
プログラム対象者	２５８	３３	６９	１２０	5	7	２３	0	1
保健指導実施者	２３６	２９	５９	１１５	5	7	２１	0	0

イ　保健指導未実施（２２人）の理由内訳

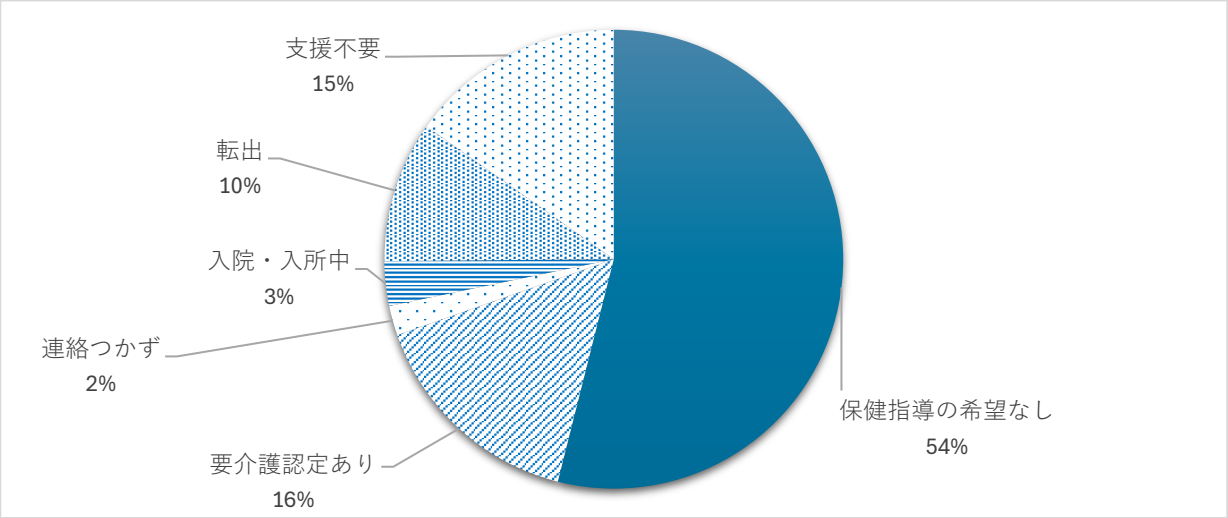


（３）令和６年度健康診査データで把握した対象者の支援状況

ア　対象者について（健康診査受診者 43,477 人について）　（人）

	人数	内　訳						
		栄養	口腔	運動	栄養 口腔	栄養 運動	口腔 運動	栄養 口腔 運動
プログラム対象者	６２０	１５７	１３９	１６３	２０	１０９	１３	１９
保健指導実施者	４２９	１０５	９３	１１５	１５	７９	８	１４

イ　保健指導未実施（１９１人）の理由内訳



（４）把握方法別・年代別保健指導実施率

（保健指導実施率＝保健指導実施者数÷支援対象者数×100）

（%）

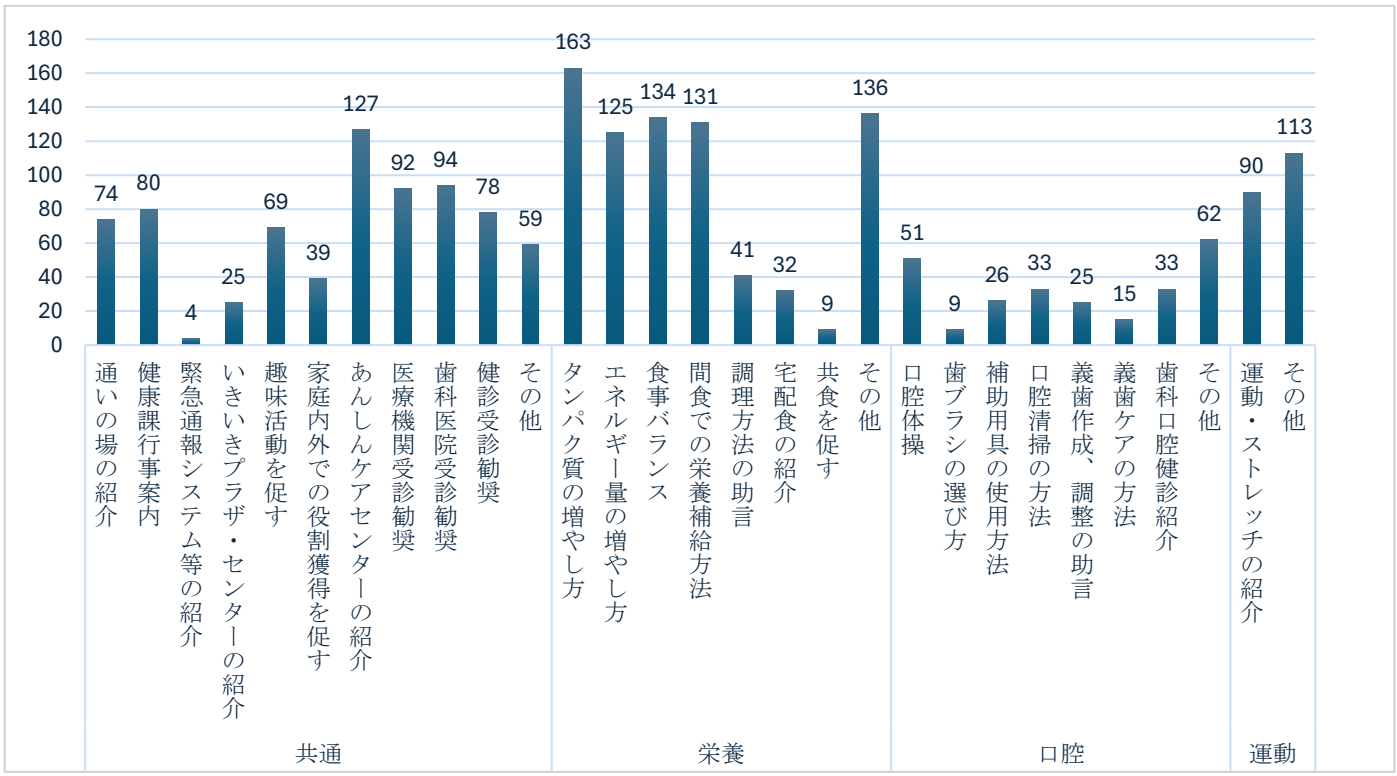
	保健指導実施率	把握方法別・年代別実施率					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
全体 (※)	75.6	89.6	90.5	89.4	71.6	66.8	74.2
栄養	72.2	91.7	85.3	100.0	68.9	70.0	68.6
口腔	74.7	86.2	88.3	90.9	72.1	64.8	80.0
運動	78.7	95.6	94.9	88.9	77.3	69.7	60.0

(※) 保健指導を１回以上実施した人数

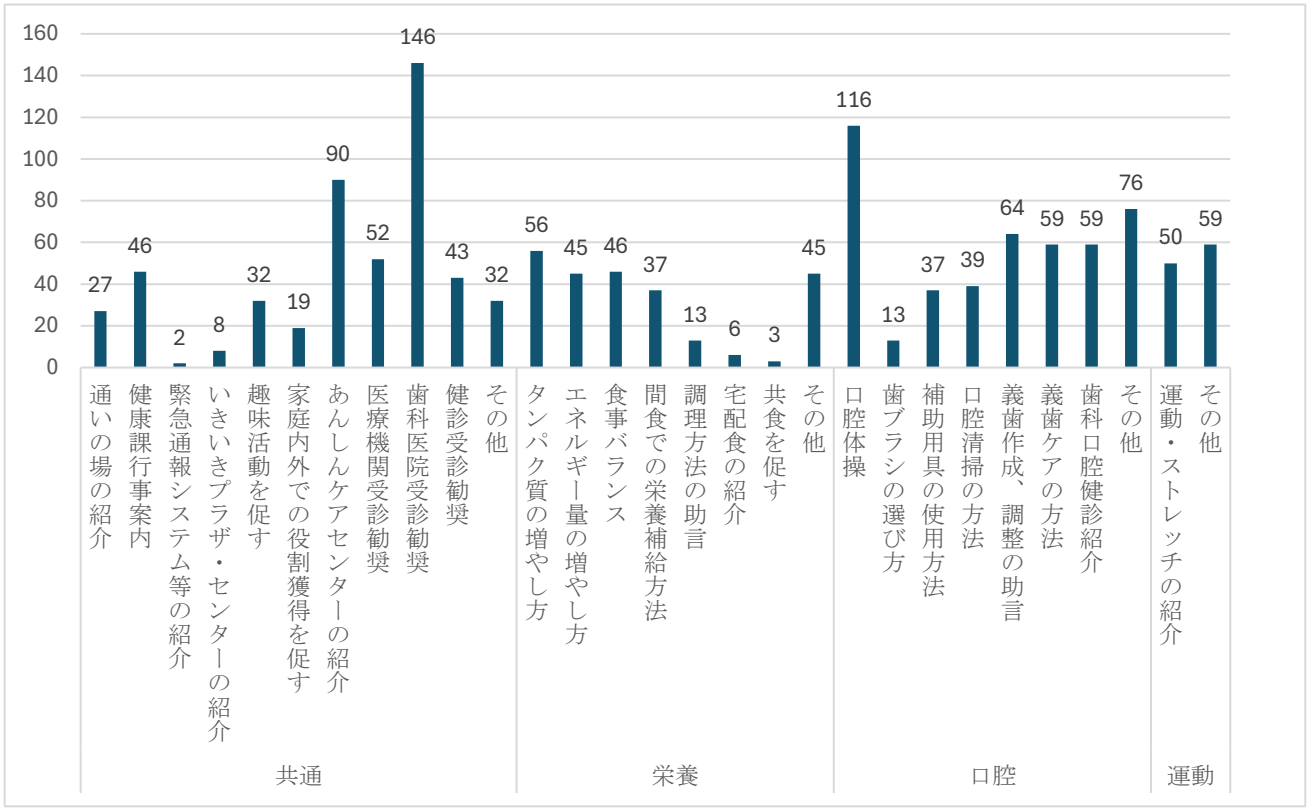
（５）保健指導内容

≪栄養該当者≫

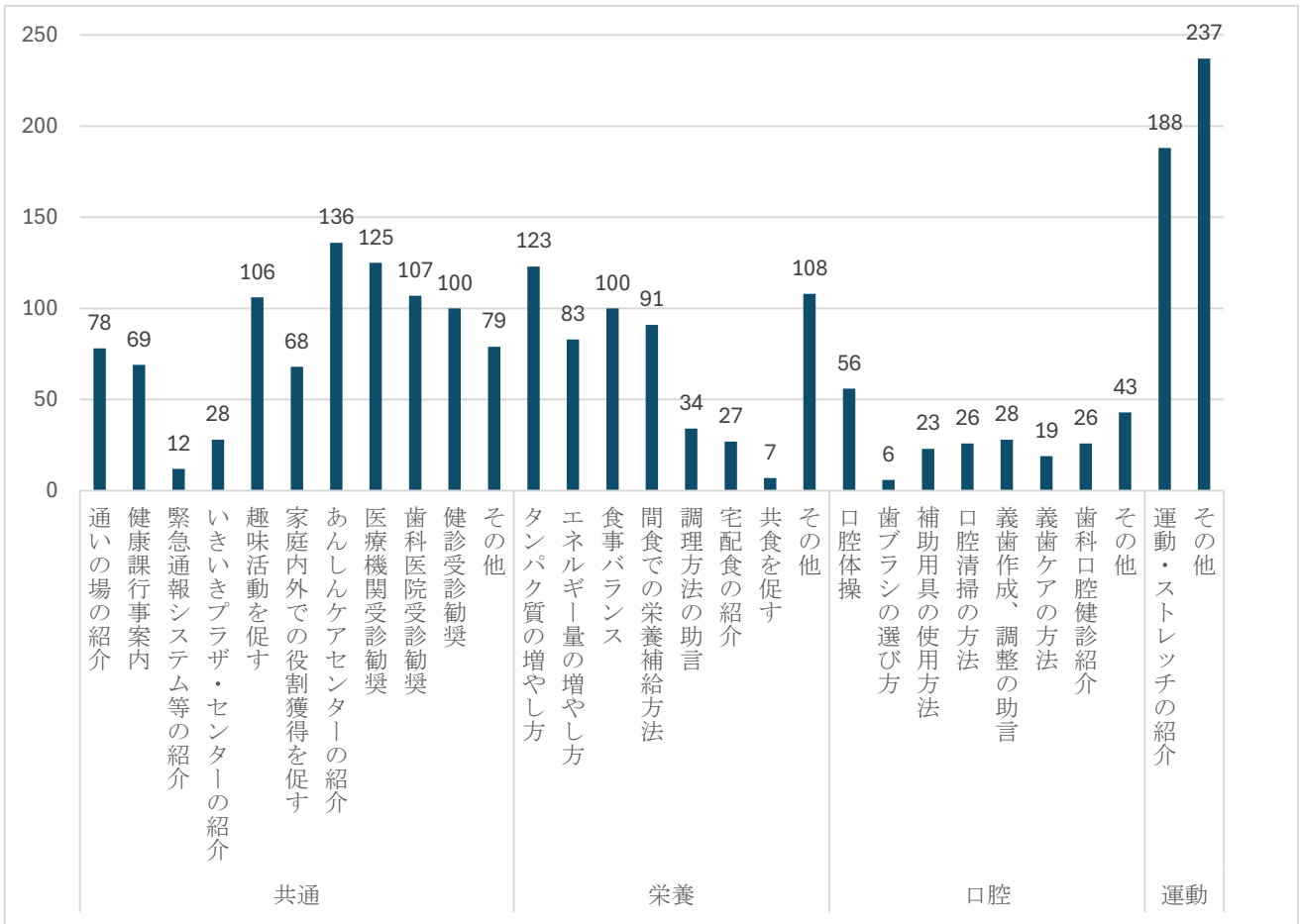
（人）



≪口腔該当者≫ （人）

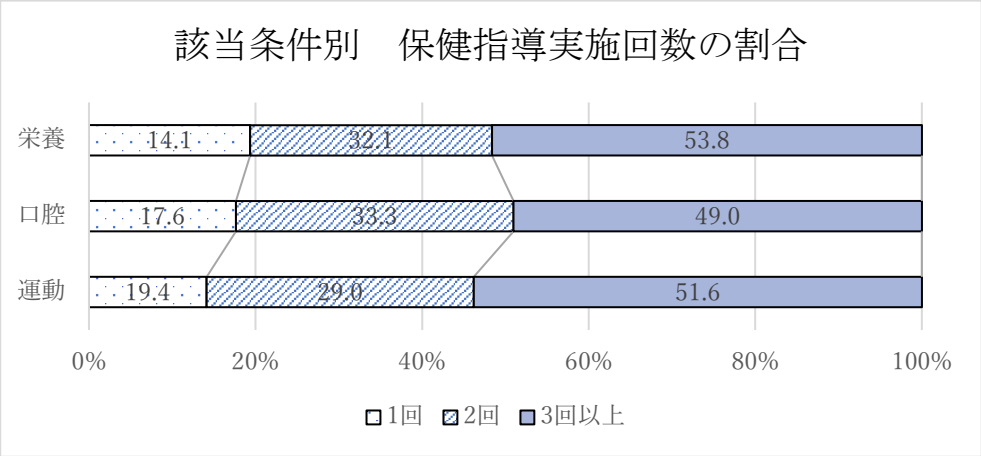


≪運動該当者≫ （人）

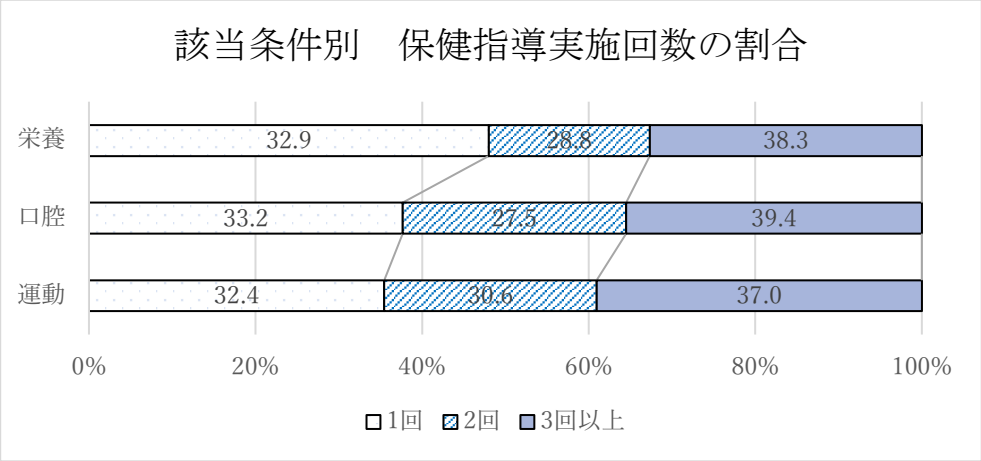


（６）保健指導回数の割合

≪通いの場からの抽出≫



≪健診結果からの抽出≫



（7）個別的支援（フレイルリスクの高い方）の評価

保健指導を実施した 665 人（通いの場：236 人、健診結果：429 人）のうち、初回訪問・測定から３か月から６か月後に確認できた方を評価した。

ア　健康課題の解決状況

健康課題を全部または一部解決できた割合は、評価実施人数の 93.4%だった。　（人）

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	３０４	１８	４３	6	６１	１５０	２６
健康課題を全部または一部解決できた人数	２８４	１７	４１	5	５８	１４０	２３

イ　健康課題解決のための行動目標の定着状況

健康課題解決のための行動目標を全部または一部定着できた割合は、評価実施人数の 93.7%だった。　（人）

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			1.　健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	２８９	１８	４１	6	５６	１４４	２４
行動目標を全部または一部定着できた人数	２７１	１６	４０	6	５３	１３４	２２

ウ　適切なサービス等につながった人数（※2）　（人）

		人数	内　訳					
			通いの場で把握			健診結果から把握		
			７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
接続先	医療機関	２６２	１５	３５	5	５６	１２８	２３
	歯科医療機関	１６６	8	２６	2	３９	７９	１２
	通いの場	１５２	１５	３６	5	２３	６１	１２
	趣味活動	１５３	１４	３１	3	２７	６２	１６
	家庭内外での役割	２１８	１５	３５	5	３７	１１０	１６
	あんしんケアセンター	２９	2	5	1	6	１３	2
	健康課事業等	２６	3	１０	0	5	7	1

（※１）対象者によって評価可能な項目が異なるため、項目ごとに評価実施人数が異なる。

（※２）同一者の重複を含む

エ　栄養に関する評価

保健指導は 254 人（通いの場：41 人、健診結果：213 人）に実施。

①　体重の増加・維持の割合（※±0.9 ㎏を維持とした。）

体重が増加・維持できた割合は、評価実施人数の 88.3%だった。　（人）

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	１２８	3	7	1	２０	８３	１４
増加・維持※の人数	１１３	3	4	1	１８	７５	１２

②　必要な食事摂取の理解度

必要な食事摂取について理解できた方の割合は、評価実施人数の 88.2%だった。　（人）

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	１３６	3	7	1	２６	８５	１４
理解できた人数	１２０	3	5	1	２２	７９	１０

③　エネルギー量の支援前後の変化

エネルギー量が増加・維持できた割合は、評価実施人数の 79.3%だった。　（人）

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	１５０	3	7	1	３４	８９	１６
増加・維持の人数	１１９	3	5	1	２１	７４	１５

④　たんぱく質摂取量の支援前後の変化

たんぱく質摂取量が増加・維持できた割合は、評価実施人数の 83.2%だった。　（人）

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	１４９	3	7	1	３４	８８	１６
増加・維持の人数	１２４	3	5	1	２４	７７	１４

（※１）対象者によって評価可能な項目が異なるため、項目ごとに評価実施人数が異なる。

オ　口腔に関する評価

保健指導は 215 人（通いの場：85 人、健診結果：130 人）に実施。

①　オーラルディアドコキネシスの変化

口唇を閉じる力（パ）が改善・維持できた割合は 60.4%、舌の前方の動き（タ）が改善・維持できた割合は 64.6%、舌の後方の動き（カ）が改善・維持できた割合は 75.0%だった。（人）

		人数	内　訳					
			通いの場で把握			健診結果から把握		
			７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
パ	評価実施人数（※1）	４８	4	１２	2	7	１７	6
	増加・維持の人数	２９	3	9	2	3	9	3
タ	評価実施人数（※1）	４８	4	１２	2	7	１７	6
	増加・維持の人数	３１	3	7	2	5	１０	4
カ	評価実施人数（※1）	４８	4	１２	2	7	１７	6
	増加・維持の人数	３６	4	9	2	5	１２	4

②　プラークスコアの支援前後の変化

プラークスコアが改善・維持できた割合は 64.3%だった。　（人）

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	２８	4	１２	2	2	7	1
改善・維持の人数	１８	2	6	0	2	7	1

③　舌苔スコアの支援前後の変化

舌苔スコアが改善・維持できた割合は 75.8%だった。　（人）

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	３３	3	6	2	7	１１	4
改善・維持の人数	２５	3	5	1	6	7	3

④　食べやすさの支援前後の変化（本人の主観）

・咀嚼の改善状況

咀嚼が改善・維持できたと回答した割合は 97.8%だった。　（人）

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	９１	6	１５	2	１７	４０	１１
改善・維持の人数	８９	5	１４	2	１７	４０	１１

・嚥下の改善状況

嚥下が改善・維持できたと回答した割合は 94.4%だった。　（人）

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	９０	6	１５	2	１６	４０	１１
改善・維持の人数	８５	6	１３	2	１６	３９	9

（※１）対象者によって評価可能な項目が異なるため、項目ごとに評価実施人数が異なる。

カ　運動に関する評価

保健指導は 359 人（通いの場：143 人、健診結果：216 人）に実施。

①　意識的に継続※1して体を動かす※2ようになった割合

※１　週に２回以上継続して体を動かしている方が含まれる

※２「体を動かす」には買い物や掃除等の生活行為も含まれる。

意識的に継続して体を動かすようになった割合は 92.0%だった。

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	１５０	１０	２２	5	２０	７６	１７
意識的に継続して体を動かすようになった人数	１３８	１０	２１	4	１９	６８	１６

②　動きにくさの支援前後の変化（本人の主観）

動きにくさが改善・維持できた割合は 93.8%だった。

	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	１４６	１０	２１	5	２３	７５	１２
改善・維持の人数	１３７	9	２０	4	２３	６９	１２

③　外に出る回数の支援前後の変化

外出回数が増加・維持できた割合は 84.9%だった。

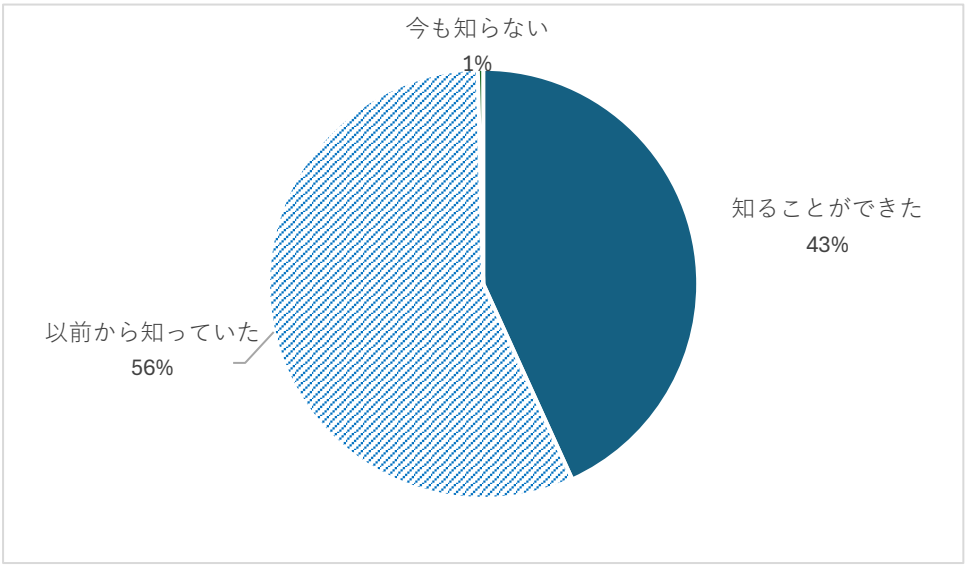
	人数	内　訳					
		通いの場で把握			健診結果から把握		
		７０代	８０代	９０代	７０代	８０代	９０代
評価実施人数（※1）	１４６	7	２４	5	２５	７３	１２
増加・維持※の人数	１２４	7	２２	4	２３	５８	１０

※０回の維持は除く。

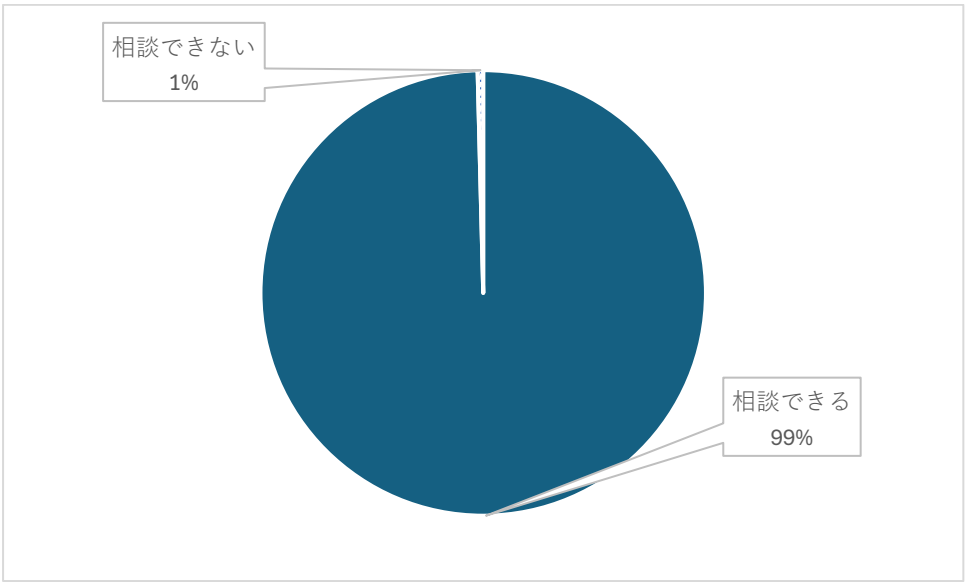
（※１）対象者によって評価可能な項目が異なるため、項目ごとに評価実施人数が異なる。

（８）保健指導実施者の指導後のアンケート結果

ア　あなたが困ったときに相談できる場所（機関）を知ることができましたか。（回答者数 288 人）



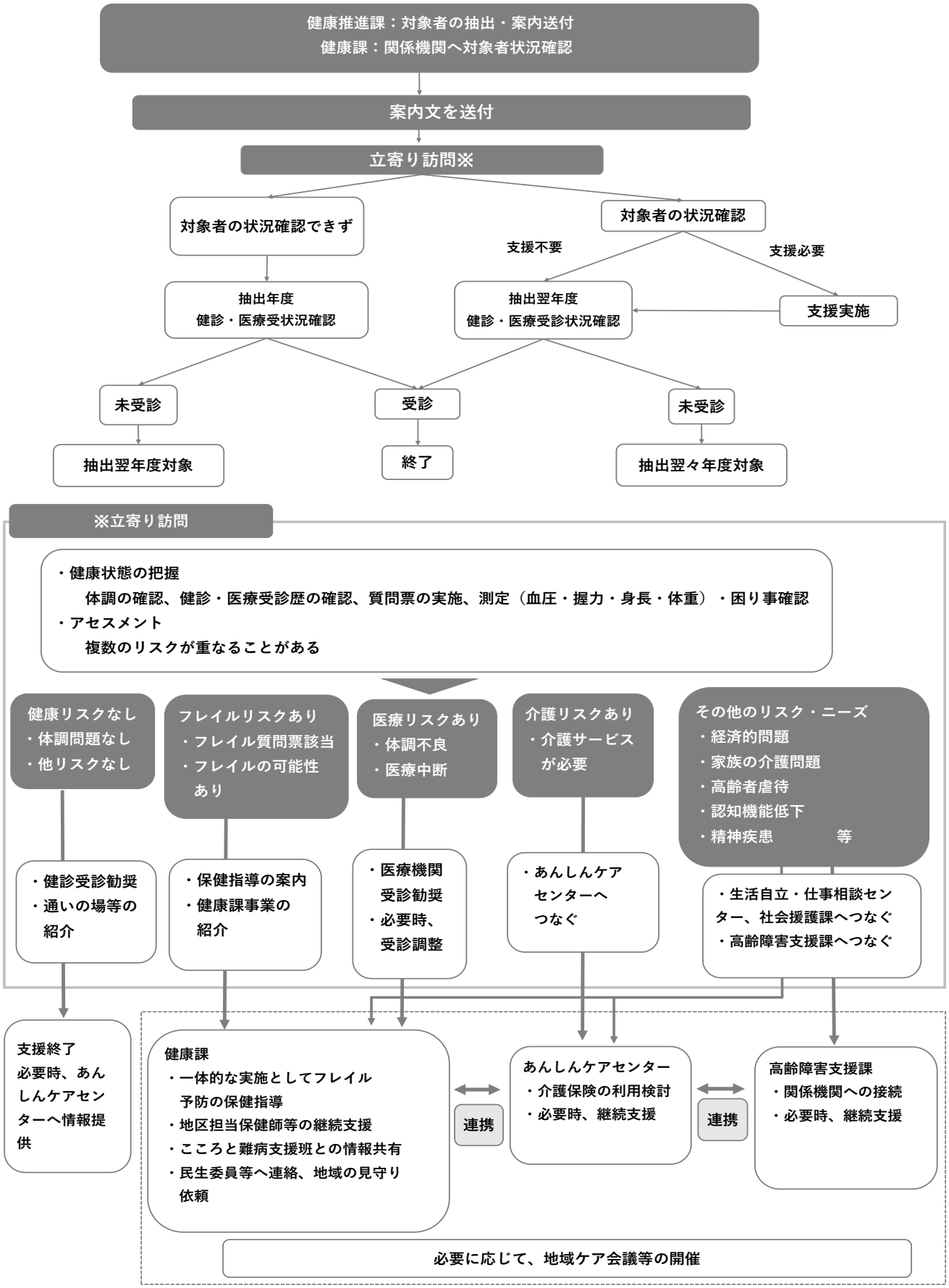
イ　（今回知った、以前から知っていると回答した方のみ）
困ったときにはそこに相談できますか。（回答者数 282 人）



4　健康状態不明者

前々年度、前年度に健康診査未受診かつ医療・歯科医療機関への受診がなく、要介護認定を受けていない令和６年度末年齢が７６、８０、８５、９０、９５歳の方の健康状態を確認し、必要な方には状況に応じた支援を実施する。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施【健康状態不明者に関するプログラム】



（１）　抽出者の内訳　　（人）

抽出人数		６５０
	７６歳	３５７
	８０歳・８５歳	２５０
	９０歳・９５歳	４３
対象者数		５７３
	７６歳	３１５
	８０歳・８５歳	２２１
	９０歳・９５歳	３７
対象外		７７
	死亡	7
	要介護	9
	市外居住	4
	長期入院	4
	その他	５３

（２）健康状態の確認状況（対象者５７３名）　　（人）

質問票実施		３１５
	７６歳	１７１
	８０歳・８５歳	１２３
	９０歳・９５歳	２１
質問票未実施・目視等で確認		１３９
	７６歳	８０
	８０歳・８５歳	４９
	９０歳・９５歳	１０
健康状態の確認の拒否		８１
	７６歳	４１
	８０歳・８５歳	３５
	９０歳・９５歳	5
不在		３８
	７６歳	２３
	８０歳・８５歳	１４
	９０歳・９５歳	1

（３）　健康状態の確認結果（質問票実施、質問票未実施・目視等で確認の４５４人）　　（人）

健康		３１８
	７６歳	１８６
	８０歳・８５歳	１１４
	９０歳・９５歳	１８
ハイリスク対象		１３６
	７６歳	６５
	８０歳・８５歳	５８
	９０歳・９５歳	１３
ハイリスク該当条件別内訳 ※重複あり	栄養	１１
	口腔	９０
	運動	３４
	要医療	１５
	要介護	4
	その他	１４

（４）　フレイル等のハイリスクアプローチ対象者への支援実施状況（ハイリスク対象１３６人）

（人）

支援実施		７９
	保健指導し終了	４０
	医療機関につないだ	１２
	あんしんケアセンターにつないだ	１４
	通いの場につないだ	1
	一体的な実施で継続支援	1
	その他	１１
支援未実施		５７
	支援希望なし	５７